

# 年報刊行のあいさつ

都市政策研究センター代表・専修大学経済学部教授 平尾光司

都市政策研究センターは2006年にはその活動の3年目に入りプロジェクト計画期間の折り返し地点を越えることになった。

研究年度の初めの2006年4月22日～23日に専修大学富士山中湖セミナーハウスで全員合宿を実施してまず2005年度の研究活動の総括と評価を行い、2006年度の研究活動の方針の全体討議を行いそれに基づきユニット別分科会を開催してそれぞれの調査・研究の方向付けをとりまとめた。

2006年度は最終年度での都市政策提言をより強く意識してこれまでの調査・研究成果を掘り下げるとともに横展開を目指すことを基本方針とした。さらにその準備作業の中間点での総括もかねて、年報、論文集の発行に加えて「川崎市都市白書」〈仮称〉の刊行も決定された。そのためにも川崎市、川崎産業振興財団とのより一層の協同作業も合意された。

その基本方針にそって各ユニット別の研究計画の方針が以下のように決定された。

## (1) 都市産業ユニット

製造業の発展方向と政策対応の在り方を基本テーマとして具体的研究課題として以下が決定された。

- ・中小企業調査のフォローアップ（財務データ分析の追加）
- ・市内ベンチャー企業の実態調査
- ・電機産業構造分析
- ・インキュベーション機能

## (2) 都市経済政策ユニット

2005年度の成果を踏まえて都市政策のマクロ的課題を明らかにする。

- ・川崎市の税収構造の特質
- ・12政令指定都市における川崎市経済の特殊性

## (3) 都市基盤ユニット

都市型流通・サービス産業の展望と臨海部の整備・再生の在り方の解明

1. 今後の成長分野としての都市型サービス産業の調査による発展方向
2. ラゾーナと周辺地区の開発による商業地域の再開発
3. 羽田空港国際化にともなう臨海部の土地利用、インフラ整備による再生の条件

## (4) 都市比較ユニット

2005年度の調査で明らかにされた川崎市の都市競争力指標の精緻化とアメリカ以外の都市、日本の国内政令都市との比較研究

また、公開講座事業計画と国際シンポジウムの実施計画を策定した。

公開講座は2005年度の産業ユニットの調査報告の発表「川崎市の都市再生と中小企業の役割」、国際シンポジウムは「ラゾーナ川崎と新商業拠点形成の可能性」とされた。

それぞれ6月22日、11月26日に開催された。

公開講座は川崎市の中小企業団体、経営者、行政担当者と幅広い参加者を集め、川崎の中小企業の成長への課題について活発な質疑が展開された。国際シンポジウムには中国、韓国からのパネリストも参加して熱心な討議がなされ、ラゾーナのオープンの直後でもあり、一般市民も含めて各方面からの多くの出席者があり、マスコミなどでも報道された。

また、特別公開講座として川崎市産業振興財団と共済で経済産業省前田素形材産業室長を報告者として「素形材産業ミニシンポジウム」を開催した。等論者には地域の中小企業経営者に多くご参加いただいた。

なお、宮本研究員、望月研究員はリヨン大学で開催された国際シンポジウム「Industrial Cluster in Asia」に招請されて川崎の中小企業、都市競争力指標の報告を行い研究成果に基づく国際交流を深めた。

以上紹介した2006年度の我々の研究活動の成果を年報としてとりまとめた。

研究プロジェクトの開始以来変わらぬご支援をいただいている関係各位、特に川崎市、川崎産業振興財団、川崎市商工会議所、株式会社KSP、川崎信用金庫および日本政策投資銀行の皆様に深く謝意を表したい。